

第 13 回スポーツ少年団指導者全国研究大会 分科会概要報告

【D 分科会】

テーマ：「学校教育の変革とスポーツ少年団」

座長兼パネリスト：米谷 正造

パネリスト：池田 延行・加賀美 猛

< 概要 >

D 分科会は、「学校教育の変革とスポーツ少年団」というテーマで、米谷正造氏を座長に池田延行氏、加賀美猛氏より話を伺った。

国士舘大学の池田氏からは、教育再生会議の提言や中央教育審議会「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会」での議論等、主に最近の学校教育変革の動向について発表いただいた。スポーツ少年団活動は、教育再生会議・中央教育審議会の提言を、内容・時間・指導者ともに軽く凌いでいることが指摘され、青少年の心身の発達におけるスポーツ少年団の役割は大きいとの見解が述べられた。また、子ども達は“無邪気な童”であり、その指導方法については十分注意する必要があることや、スポーツ（少年団活動）は子ども達の「生活の中心軸」となり得るものであり、その環境作りが重要であることが発表された。

山梨県教育庁の加賀美氏からは、学校とスポーツ少年団の相互の係わり方について発表いただいた。具体的には、本人の教員経験から、管理職との連携の必要性、学校教員の中にスポーツ少年団等に対応する窓口（社会教育関係担当）を置くこと、スポーツ少年団指導者からは、学校に対し自分達の活動への理解を求めたり、外部指導者として協力することを模索することが必要であるとの見解が述べられた。

米谷氏からは、スポーツ少年団はすべての子ども達に門戸を開いているが、小学生の加入率は11%程度であり、残りの89%程度の小学生はスポーツ少年団には所属していないこと、特に都市部と女子の加入率が低く、このことが子ども達の体力低下を招いているという現状について発表いただいた。

最後に米谷座長より、パネリストの発表、および参加者からの意見・質問を総括した上で、学校とスポーツ少年団が連携していくためには、国レベル、都道府県・市区町村の各級スポーツ少年団と教育委員会・学校レベル、教員とスポーツ少年団指導者・単位団レベルにおいて、それぞれが、それぞれの現場で引き続き働きかけを行っていく必要性を説き、D 分科会を締め括った。

学校とスポーツ少年団の子ども達に対する思いは同じである。この国の宝である子ども達の健全育成という役割を担うパートナーとして、今後より一層の協調関係を構築することが望まれる。